

デーヴォ ガイド



2024.2.24-3.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。

15:10 わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

15:14 わたしが命じることを行なうなら、あなたがたはわたしの友です。

15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。

御父とイエス様の愛の関係が、そのままイエス様と私たちの関係になるように、イエス様は愛してください。ですから、私たちがイエス様を愛するのです。自分のために命を捨ててください、今もその同じ愛で助けてくださる方を、心から愛していないとするなら、その感覚はどこか麻痺しているかもしれません。私たちは当然イエス様を愛しています。共にいたいし、喜ばせたいと思うでしょう。ですからイエス様の「戒めを守る」のです。

その戒めとは「互いに愛し合うこと」です。すべての律法は「愛する」ということで完成するのです。ではどのように愛するのでしょうか。それはその人のために最も大切なものを差し出して、あげてしまうということです。

最も大切なものは「いのち」ですが、イエス様はその命を愛する私たちに差し出して、つまり十字架にかかって「捨て」てくださったのです。私たちが、誰かのために大切なものを差し出すことは、幸いの原点です。その人の幸いでもありますし、「受けるよりも与える方が幸い」という真理によって、私たちが幸いなのです。

それが出来る人はクリスチャンとしての価値観を持った人です。イエス様はそのような「命じることを」行なう人を、「わたしの友です」と言ってください。イエス様の友となりましょう。

そのような友は、イエス様から「父から聞いたことを知らせて」いただけますし、イエス様の「名によって求めるものは何でも」与えられるのです。

「互いに愛し合うこと」という戒めを、イエス様への愛のゆえに、喜びと真心をもって行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 火曜

ヨハネ



15:18 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを覚えておきなさい。

15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

15:20 しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害されます。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。

15:21 しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。

15:22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今では、彼らの罪について弁解の余地はありません。

15:23 わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいます。

15:24 もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。

15:25 これは、『彼らはゆえもなくわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。

15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、

すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証してください。

15:27 あなたがたも証します。初めからわたしと一緒にいたからです。

誰かの側に付くということは、その人に反対者がいた場合、その反対者の敵にもなるということが起きます。当然イエス様の側に付いていながら、反対者の味方になることはできません。あるクリスチャンはその点で、あいまいな生き方をしているかも知れません。何を信じているのかわからないような行動をとってしまうことになります。

ここでいう「世」というのは、神のものではないという意味の世であり、また神を信じない世の価値観でもあります。世がイエス様を「憎む」すなわち反対するのであるなら、そのイエス様よりも「まさるものではない」私たちをも、世が憎むのは当然の成り行きです。しかし、そのような苦境にある場合も、私たちよりも先にイエス様が「先に」憎まれたことを「覚えておきなさい」と言われます。イエス様は、信仰のゆえに攻撃を受けている人の仲間であり、助け手です。

いずれにしても結局反対者の「罪は」明らかであり、「弁解の余地は」ないので、私たちは彼らの同調者にならないように気をつけましょう。同調者ではなく、愛の助け手やとりなし手となるべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 水曜

ヨハネ



16:1 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまづくことのないためです。

16:2 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。実際、あなたがたを殺す者がみな、自分は神に奉仕していると思う時が来ます。

16:3 彼らがそういうことを行うのは、父もわたしも知らないからです。

16:4 これらのことをあなたがたに話したのは、その時が来たとき、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしは初めからこれらのことを話すことはしませんでした。それはあなたがたとともにいたからです。

16:5 しかし今、わたしは、わたしを遣わされた方のもとに行こうとしています。けれども、あなたがたのうちだれも、『どこに行くのですか』と尋ねません。

16:6 むしろ、わたしがこれらのことを話したため、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかにさせていただきます。

16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

16:10 義についてとは、わたしが父のもとに

行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

16:11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。

16:12 あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません。

16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。

16:14 御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。

16:15 父が持つておられるものはすべて、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに伝えと言ったのです。

イエス様を信じて永遠のいのちを得た人々は、その多くが迫害を受けました。信仰とはそういうものだからです。もしも永遠のいのちに価値がなかったなら、それにはオマケがたくさん付いてくることでしょう。たとえば家内安全商売繁盛のようなご利益のように。

しかしたとえ、ご利益を含めて全世界を失ったとしても、永遠のいのちを得ることは幸いの極みなのです。それだけで無限の価値があることを知っているので、殉教者たちはためらわずに信仰を洗濯しました。

当時の状況は弟子たちには過酷でしたが、私たちがその生き様を知って、永遠のいのちの絶大な価値を実感するのです。ならば私たちも、少しは彼らのように、喜びの自己犠牲をも選んでみま

しょう。

弟子たちにとって聖霊が助け手であられたように、私たちにとっても聖霊様がおられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 27日 木曜

ヨハネ



16:16 しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなります。またしばらくすると、わたしを見ます。」

16:17 そこで、弟子たちのうちのある者たちは互いに言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と言われるのは、どういうことなのだろうか。」

16:18 こうして、彼らは「しばらくすると、と言われるのは何のことだろうか。何を話しておられるのか私たちには分からない」と言った。

16:19 イエスは、彼らが何かを尋ねたがっているのに気づいて、彼らに言われた。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見る』と、わたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。」

16:20 まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。

16:21 女は子を産むとき、苦しみます。自分の時が来たからです。しかし、子を産んでしまうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その激しい痛みをもう覚えていません。

16:22 あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会います。そして、あなたがたの心は喜びに満たされません。その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

16:23 その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。

16:24 今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。

イエス様は、十字架の死によって弟子たちと別れること、それゆえに彼らが「嘆き悲しむ」ことを告げられます。しかし、それは「喜びに変わる」と宣言されます。死と悪魔に勝利して復活されるからです。

死については「女が子を産むとき」にたとえておられます。それは最後には「苦痛を忘れてしまう」ほどの喜びです。きっと私たちの死も同じでしょう。肉体の命を終えることは苦痛のようですが、天での喜びはすぐに訪れ、すべての苦しみを忘れるほどの喜びに満たされるのです。

イエス様が復活されてからは「もう一度あなたがたに会います」と、その希望を明かにしておられます。復活の後の「喜び」はだれも「奪い去る」ことができないほど力強く、確かなものです。さらに私たちと御父との隔てがなくなるので、「求めることは」与えられるのです。すばらしい復活の恵に感謝して、その恵によって生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 金曜

ヨハネ



16:25 わたしはこれらのことを、あなたがたにたとえて話しました。もはやたとえて話すのではなく、はっきりと父について伝える時が来ます。

16:26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます。あなたがたに代わってわたしが父に願う、と言うものではありません。

16:27 父ご自身があなたがたを愛しておられるのです。あなたがたがわたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからです。

16:28 わたしは父のもとから出て、世に来ましたが、再び世を去って、父のもとに行きま

す。」
16:29 弟子たちは言った。「本当に、今あなたははっきりとお話しくださり、何もたとえでは語られません。

16:30 あなたがすべてをご存じであり、だれかがあなたにお尋ねする必要もないことが、今、分かりました。ですから私たちは、あなたが神から来られたことを信じます。」

16:31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。

16:32 見なさい。その時が来ます。いや、すでに来ています。あなたがたはそれぞれ散らされて自分のところに帰り、わたしを一人残します。しかし、父がわたしとともにおられるので、わたしは一人ではありません。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

イエス様が「神から出て来た者」すなわち救い主と信じる者を、御父は愛してくださいます。しかしイエス様はご自身が「ひとり残」されることを知っていました。この後、十字架の前にして弟子たちは逃げてしまったのです。

それでも弟子たちが「平安を持つために」イエス様は、あらかじめそのことを教えてくださったのです。ご自分が裏切られることを知っていながら、それでもなお弟子たちのことを思いやっくださる愛です。

私たちにも「世にあっては苦難があり」ですが、思いやっくださるイエス様を信頼しましょう。しかもイエス様は「世に勝ちました」という全能の神なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 土曜

ヨハネ



17:1 これらのことを話してから、イエスは目を天に向けて言われた。「父よ、時が来ました。子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。

17:2 あなたは子に、すべての人を支配する権威を下さいました。それは、あなたが下さったすべての人に、子が永遠のいのちを与えるためです。

17:3 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

17:4 わたしが行うようにと、あなたが与えてくださったわざを成し遂げて、わたしは地上であなたの栄光を現しました。

17:5 父よ、今、あなたご自身が御前でわたしの栄光を現してください。世界が始まる前に一緒に持っていたあの栄光を。

17:6 あなたが世から選び出して与えてくださった人たちに、わたしはあなたの御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに委ねて下さいました。そして彼らはあなたのみことばを守りました。

17:7 あなたがわたしに下さったものはすべて、あなたから出ていることを、今彼らは知っています。

17:8 あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたのもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

十字架と復活こそが主イエスの栄光です。全能の主が自ら栄光として受けたられたものは、単に万物を思い通りに動かすというのではなく、万物の

ろいを解き人を救うために、犠牲になるという驚くべき愛の実行でした。その絶対の権威は「すべての人に...永遠のいのちを与えるため」に行使されたのです。

私たちも同じです。権威や力があるとしたら、それは永遠のいのちのためにあるのです。本当の栄光は人のために喜んで犠牲を払える人にもたらされるものなのです。

神様が与えてくださった権威以外にははかない偽物と言っても良いようなものです。主のために生きる時に、自分には権威が与えられているのだという確信を持ちましょう。恐れもへつらいも言い訳もありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 日曜

ヨハネ



17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さった人たちのためにお願いします。彼らはあなたのものであります。

17:10 わたしのものはすべてあなたのもので、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。

17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。

17:12 彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。

17:13 わたしは今、あなたのもとに参ります。世にあってこれらのことを話しているのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです。

17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。

17:15 わたしがお願ひすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖別してください。

あなたのみことばは真理です。

17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。

17:19 わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。

イエス様の祈りは常に弟子たちのためであり、またそれはすべての時代の信徒のためです。弟子たちも含めて、その信仰は完全ではありませんが、イエス様は信徒によって「栄光を受け」ることができるのです。私たちは世にあって、イエス様の栄光を表しましょう。

イエス様は「彼らをお守りください」と祈りますが、それは「一つとなるため」です。信仰者の愛の一致を強く願っておられるのです。しかしそれは真理であるイエス様を中心にした一致であって、敵対者である「滅びの子」までも仲間にしてしまうような、いい加減な一致ではありません。福音の真理は曲げないようにしましょう。聖書の成就しなわちみことばにしっかりと従いましょう。

イエス様は弟子たちについて「この世のものではない」と二度も語っておられます。信仰者は、すなわち永遠のいのちをいただき、天に国籍の有る者は、この世に生きていながらこの世のものではないのです。ですからこの世が滅びても滅びることはなく、この世が裁かれても裁かれることがないのです。

ですから私たちがこの世の人々と違う生き方をするのは当たり前です。しかしまた「この世から取り去られるわけではありません。この世の人々と交わりながらも、「真理によって」生きることにより、「聖め」られ「別」たれているのです。それがクリスチャンの希望であり、愛であり、また生き方です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

